

11月4日(木)

マチ教授、トケシ教授、イツツ教授との夕食会

報告：反町 光太郎 (Bグループ)

レジデントとの懇談を終え、少し時間があり各々のしばしの余暇を楽しんだあとはお待ちかねの夕食会の時間となった。会場は我々が宿泊するアラモアナホテル内の中華料理店。

この時間から、ハワイ島の家庭医療見学コースの方々とも徐々に合流とのことでお互いの話が聞けると思い楽しみにしながら会場に向かった。



集合は18:30。私は予約しているものと思っていたため一人中に入ってみみんなの到着を待っていた。そこへイツツ先生到着。今回先生とは初めてお会したため、2人きりの時は正直何を話そうかわからなかったが、イツツ先生は私にでも理解できる英語で福島のことや、先生の日本との縁などについてお話しした。

そうこうしているうちに全員到着。円卓テーブルが2つあり、あろうことかハワイ島組とオアフ島組が分かれて座ってしまう流れになってしまった。私が座るオアフ島席にはマチ先生が座りアメリカの学生生活の話などいろいろな話を聞かせてもらった。

中でも印象に残っているのは「アメリカの医学生は学生生活を楽しもうなんて全く思っていない。楽しもうと思っている自体間違いなんだ」という、私にとっては痛い一言である。



アメリカは医学部進学から専攻決定にしてもすべてにおいて競争原理が働いており、学生の時から努力して勉強しないと希望の進路には進めないというのだ。私が過ごしてきた学生生活からはかなりかけ離れは生活である。しかし、そういう努力をさせる仕組みが優秀な医師をたくさん輩出させる源となっているためマチ先生は文部科学省に掛け合い日本もアメリカのように medical school を導入すべきだと提唱

科学省に掛け合い日本もアメリカのように medical school を導入すべきだと提唱

しているのだという。なかなか掛け合ってもらえないと嘆いていらっしやった。こちらのテーブルはすべて日本語の会話であったが、ハワイ島席は終始英語の会話であった様子。もしそちらの席に座っていたら、英語に不慣れな私にとっては気の休まらない夕食会であったに違いない。

終始、会話が続き最後に日本側から先生方にささやかなながらプレゼントを贈呈し会はお開き。集合写真を撮影し解散となった。ハワイ研修4日目、終了。